しらおい再発見

地　域　学　講　座

３ 大町・高砂地区

JR 白老駅

しらおいのまちを歩いてみませんか

2017年３月

民族共生象徴空間整備による

白老町活性化推進会議

３　大町・高砂地区

内　容　　ＪＲ白老駅、満岡照子歌碑から屋根のない博物館通り、旧白老小、アイヌ記念公園ほかを歩きます

ルート　　①白老駅・チェプカの広場・満岡照子歌碑　⇒

②屋根博通り（旧国道）・満岡照子旧宅跡・役場庁舎　⇒

③旧白老小・風雪百年の碑・二宮金次郎像　⇒

④アイヌ記念公園･高橋房次像･旧北海道庁立白老病院跡･アイヌ碑　⇒

⑤旧道庁立白老第二尋常小学校跡・白老生活館　⇒

⑥旧白老町立高等学校（白老町高齢者学習センター）

①シラヲイ、シラオヱ、シラオモ、思浦老、白生とも

＊語源：アイヌ語で、松浦武四郎の『蝦夷日誌』に「シラウは虻のこと也、此地に虻多きが故号く也」とあり、「シラウ・オ・イ＝虻・多き・ところ」の意が定説になっているが、「シララ・オ・イ＝潮・多き・ところ」からきたという説（永田地名解）もある。

＊おいたち：元和６(1620)年、イペニックルが少数の部下を率いて日高厚賀（沙流郡日高町厚賀）から今の陣屋跡付近に集落をつくったといわれる。その後。数回に渡り、これら一族がウトカンベツ・ブーベツ・ウヨロ等に移住した。

＊寛文９(1669)年の『津軽一統志』には、「しらおい　是迄３里 悪敷川有 松井茂衛門商場　狄おとなオカツフ 家２０軒」とある。

＊和人の定住については、享和２(1802)年に白老に会所ができ、宮城の人猪狩市右衛門ほか数人が来住したのを最初とする。

＊箱館奉行所の命により文化５(1808)年に作成された『東蝦夷地各場所様子大概書』には、「白老 一 会所 御雇支配人 番人１０人、一 下宿所２か所、一 板蔵２か所、一 塩鮭切蔵１カ所 蝦夷家数３０軒 此人数１１３人 内乙名役３人小使

役１人」とある。

＊その後、仙台藩が幕命により、安政３(1856)年、元陣屋を築き、慶応４(1867)年までの１２年間、北方警備にあたった。なお、白老八幡神社の前身は今から３１７年前の元禄１３(1700)年に建てられた弁財天社『東蝦夷日誌』で、初見は「シラヲイ川舟、シラヲイ泊、弁天社あり」『蝦夷日誌』（寛政１０(1798)年）。場所請負人野口屋又蔵が誉田別神を勧請し八幡社と称する（万延元(1860)年）。

＊安政４(1857)年に箱館奉行近習玉虫左太夫が記した『入北記』には、「土人家人別調　一 土人家数３９軒 シラオイ村 人別２０９人 内男１０８人 女１０１人 役土人名前調 惣乙名オマナンテ事ヲノエモン 脇乙名イコチャンコロ事イサブロ 惣小使リキシツノツ事リキエモン　並小使８名」とある。

＊文久３(1863)年、松浦武四郎の『東蝦夷日誌』には「土人８２軒３９９人　産物 鰯鮭鱈有 鰊雑魚粕 鹿皮椎茸海鼠多し 是より上十二丁仙台藩陣屋有」とある。

＊明治２(1868)年、白老郡は一関藩（岩手県）に与えられたが、治世は２年半ばかり。

＊同年、蝦夷地は北海道と改められ、札幌に開拓使が設置される。１１国８６郡が置かれ「胆振国白老郡」の名称確定。明治６年には函館・室蘭・札幌を結ぶ札幌新道（現国道）が完成し、同９(1876)年、北海道大小区画の設置により、３０大区１６６小区に分割されて「社台村」「白老村」「敷生村」が成立。

＊明治６(1873)年、札幌から室蘭までの札幌本道開通、白老村本町に大沢周次郎が駅逓所を設ける。

＊明治１３(1880)年、白老に白老郡各村戸長役場が置かれる。

＊明治１４(1881)年９月３日、明治天皇巡幸の際、白老駅逓に宿泊。

＊駅逓は明治２６(1893)年１２月焼失。大沢邸には行在所碑があり、また駐蹕碑が３基（社台の白老ファーム、日本製紙構内、虎杖浜神社境内）建てられた。

＊明治２５(1892)年、鉄道開通し駅置かれ人口急増（１３年６９６人、２５年１，０５７人、４０年３，１３１人）

＊大正８(1919)年、二級町村制施行され、敷生・社台村合併４，９０６人。翌９年電灯点る。６，３１２人。

② **満岡照子**(明治２５(1892)年７月２１日～昭和４１(1966)年７月１３日　享年７４歳)

・白老出身の歌人。本名は満岡テル。別名筆名=落葉 秋子、白樺 秋子。

・明治４０年頃から独学で短歌を作りはじめ、北海道内の新聞などに投稿。のち、与謝野鉄幹・晶子夫妻や若山牧水・前田夕暮らに指導を受け、歌誌「詩歌」「芸林」「青空」などにも作品を発表した。

晩年は東京武蔵野市に住んだ。歌集に「火の山」「火山灰地」などがある。

・白老第一尋常高等小学校高等科の一期生として卒業した後、明治４１（1908）年に蒲原伸一と結婚。このときは満岡姓ではなかったが、夫伸一の母方の実家を再興するため、大正１０(1921)年に満岡へと改姓した。

・昭和６０年代から照子の功績を称えようと、ＪＲ白老駅前への歌碑建立運動が始まり、平成元年９月、準備会発足、１１月に歌碑が建立され除幕式が行なわれた。碑面には「白老は わが故郷よ 驛を出て 先づ眼にしたる タモの大木」とある。

③ **満岡伸一**（明治１５(1882)年～昭和２５(1950)年　享年６８歳）

・郵便局長の傍ら白老アイヌの“隣人”として３０年間を白老で過ごし、その記録をライフワークとした。著書に明治後期から昭和初期にかけての白老アイヌの生活を描いた『アイヌの足跡』（大正１３(1924)年初

版）があり、和人の文化に浸食され、失われつつあったアイヌプリ（アイヌ古来の風習）を自身によるスケッチとともに掲載。

平成元年１１月

満岡照子歌碑建立除幕

④　**森竹竹市**（明治３５(1902)年２月２３日～昭和５１(1976)年８月３日

享年７４歳）

・アイヌ三大歌人（ほかに違星北斗、バチェラー八重子）と称される。俳号を筑堂と号した。

・アイヌ名はイタクノト。白老コタンに父エヘチカン、母オテエの長男として生まれる。父の急逝により家は窮乏におちいり、９歳から漁場で働くようになる。大正４(1915)年、白老第二尋常小学校を卒業後、石狩・厚田・臼谷（小平町）や留萌の鰊場に出稼ぎに行く。

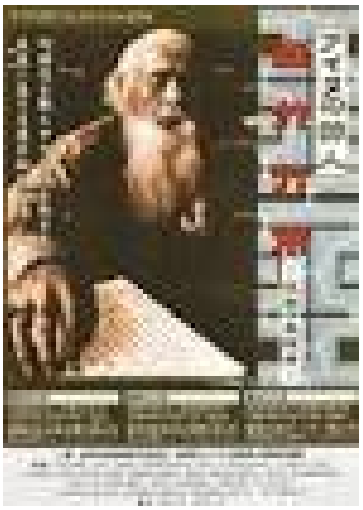
・白老郵便局長満岡伸一の好意により、大正６(1917)年から郵便局に勤める。同８(1919)年に白老駅夫を拝命し正職員となるため勉学に励む。１２(1923)年、札幌鉄道局雇員採用試験合格。昭和２(1927)年、札幌鉄道局雇員を拝命し、以後は追分・佐瑠太（富川）・苫小牧・静内に貨物掛として勤務する。

・昭和１０(1935)年、静内町で更正同志会を結成し会長となる。同年依願退職し、故郷の白老で漁業に従事し、翌年から食堂を経営する。同１３(1938)年に村会議員の補欠選に当選し１期務める。

・竹市が年少の頃世話になった満岡伸一は、アイヌ民族研究家であるとともに俳人

であった。

２１歳の時には青吟社・老蛙会に入会し、句作を本格的に始め、新聞などに短歌や俳句を投稿するようになった。昭和４(1929)年から歌人並木凡平に師事し、彼らが主宰する『青空』に短歌を投稿。同６(1931)年に同人誌『黎明』に初めて詩を発表。アイヌ語による詩も手がけ、このような試みは今日まであまり例を見ない。昭和４７(1972)年に同人誌『しらおい文芸』を発刊し、地域の後進を育成した。



・生前に出された著作は『若きアイヌの詩集 原始林』(昭和１２(1937)年)と『今昔のアイヌ物語』(昭和３０(1955)年)で、いずれも自費出版。『原始林』は、違星北斗やバチェラー八重子に比べアイヌ民族復興の願いは間接的な表現になっているが、それは日本全体が軍国主義へと向かっている中で用心深くなっていたためか。敗戦直後から森竹の言動は「アイヌ民族の明確化」へと向かう。

・死後の昭和５２(1977)年に遺稿集『レラコラチ』が発行され、さらに森竹竹市研究会(伊東稔会長)により『森竹竹市遺稿集』が２００５年から５冊刊行され、伝承、ウェペケレ、ユカラ、祈詞と評論が残されている。墓碑は放電時にあり、『煮えたぎる血潮をペンにたぎらせて若きウタリに強く呼びかく』と刻まれている。

⑤　**国による同化政策「北海道旧土人保護法」**(明治３２(1899)年施行～平成９(1977)年廃止　７８年間)

・明治政府による北海道開拓は急激に進んだが、一方、これはアイヌの人々に多

くの苦しみを与える同化政策の実施であった。一口で言うとアイヌ民族を日本国籍に編入し、法的に日本国民化するもので、鮭漁や鹿猟を制限して農耕を奨励し、アイヌ語を禁止して日本語を使用するように教育するということであった。明治３２(1899)年、旧土人保護法を制定しアイヌの保護を図った。同法第１条、「北海道旧土人ニシテ農業ニ従事スル者又ハ従事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一万五千坪以内ヲ限リ無償下付スルコトヲ得、第９条北海道旧土人ノ部落ヲ為シタル場所ニハ国庫ノ費用ヲ以テ小学校ヲ設クルコトヲ得」として、一戸五町歩以内の土地を給与しアイヌを農民化し、一定の児童のいるコタンに国費でアイヌ学校・土人学校を特設し、和人との分離教育を行うというものであった。

⑥　**白老第二尋常小学校**（明治３５(1902)年４月～昭和１２(1937)５月　３５年間）

・明治３２(1899)４月施行の「北海道旧土人保護法」により開校。正式な校名を北海道庁立白老第二尋常小学校といい、和人の児童らが通った学校は、村立白老第一尋常小学校と言った。アイヌの児童が通った土人学校は道内に２５校新設され、アイヌ語を捨て日本語を強制的に学ばせ、忠君愛国を教育の柱とし、アイヌの日本人化・皇民化を図った。また、コタンには学校とともに、後に病院（道庁立土人病院）がつくられ、初代院長に高橋房次が赴任した。白老生活館は昭和４２年６月に第二小学校跡に竣工。

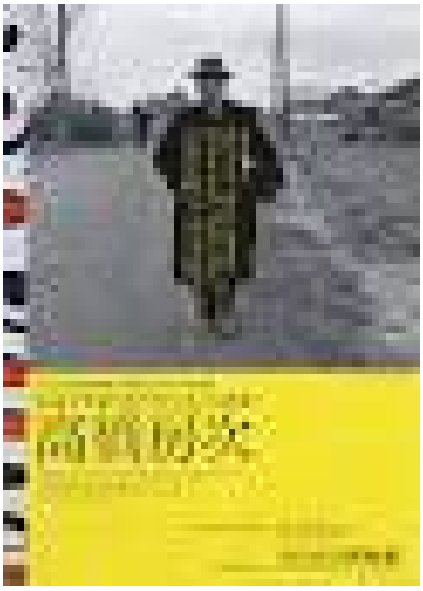
⑦　**高橋房次**（明治１５(1882)年１２月１８日～昭和３５(1960)年６月２９日　享年７８歳）

・医師高木兼寛の「病気を診ずして病人を診よ」の言葉に感銘を受け、白老で地域医療に貢献。アイヌも和人も差別せず、貧しい者からは治療代もとらなかった。往診依頼があれば吹雪の中でも深夜でも絶対に断らなかった。昭和３０年の名誉町民決定にあたっては、自身が贈られることについては信条に反すると抗った。

「コタンの赤ひげ」とか「コタンのシュバイツァー」とも呼ばれる。白老小学校に胸像が建てられ、現在はアイヌ記念公園に移設されている。

・房次は栃木県下都賀郡間々田村（現・小山市）に生まれ、間々田尋常小学校、県立中学校を経て済生学舎で学ぶ。明治３６(1903)年、医師国家試験に合格。日露戦争では従軍医として召集された。警視庁検疫委員（検視官）にも就くが２年ほどで退職。同４０(1907)年、小樽の医院に研修医として籍を置く。

２６歳の時、結婚。同４２(1909)年青森県田名部町（現むつ市）の町立田名部病院（現むつ総合病院）に研修医として勤務。大正４(1915)年、日高国高江村（現・新冠町）で開業。同９(1920)年、石狩地方広島村輪厚で開業。同１１(1922 年、北海道庁立白老病院の院長に迎えられた。昭和１２(1937)年、北海道庁立白老病院は閉鎖されたが、地元の人たちの協力で高橋医院として再出発。



２００５（平成１７年）８月１０日

アイヌ記念公園開所　アイヌ碑除幕

乗降客数の推移　　（人）

	白　老　駅
昭和　２年	５４，９０７
昭和　６年	４４，０２６
昭和　９年	４７，９７０
昭和２６年	２３７，２５０
昭和３０年	２３６，８８５
昭和３５年	３２４，８５０
昭和４０年	４２２，３０５
昭和４５年	３９１，２８０
昭和５０年	４０２，５９５
昭和５５年	３６９，０１５
昭和６０年	３１０，２５０

戸数と人口の推移

	戸数・人口
明治１３（1880）年	77 戸　353 人
明治２５（1892）年	125 戸　506 人
明治３８（1906）年	236 戸　959 人
明治４４（1911）年	327 戸　1,342 人
大正７（1918）年	359 戸　1,833 人
昭和２２（1947）年	613 戸　2,991 人
昭和２５（1950）年	678 戸　3,424 人
昭和３０（1955）年	687 戸　4,195 人
昭和３５（1960）年	1,101 戸　5,088 人
昭和４０（1965）年	1,556 戸　6,337 人
昭和４５（1970）年	2,107 戸　7,566 人
昭和５１（1976）年	2,843 戸　9,383 人
昭和５５（1981）年	3,065 戸　10,025 人
昭和６０（1985）年	3,168 戸　9,968 人
平成　２（1990）年	3,528 戸　9,661 人

＊昭和２２(1847)年、白老中学校開校

昭和２３年、現農協付近の旧国策マッチ工場を本校舎として改築竣工。２６年、現町民ふれあい広場付近に校舎新築。５２年開校３０周年記念として現地に移転。

＊昭和２７(1952)年、白老高等学校（定時制４学級）が開学、平成２年３月閉校

同年７月、高齢者学習センターとなり、高齢者の学びの場となっている。

なお、高齢者大学の開設は昭和４９年４月で、２年制９８名により発足。

＊白老村は昭和２９(1954)年１１月、町制施行により白老町と改名。

現役場庁舎は、昭和３０(1955)年９月に白老町開基１００年事業として建設された。

・昭和３０年１２月、旧白老小学校校舎竣工

・昭和５０年、白老町民憲章制定

・昭和５１年、スポーツ都市宣言

・昭和５４年、白老墓地を廃止し白老霊園へ移設

・昭和５６年、仙台市と歴史姉妹都市、ケネル市と国際姉妹都市締結

・昭和５９年、アイヌ民族博物館、仙台藩白老元陣屋資料館竣工

・昭和６３年、屋根のない博物館基本計画、歴史と文化のまち宣言

・平成元年、ＪＲ白老駅、満岡照子歌碑、チェプカの広場竣工

・平成２年、旧社台小校舎改築落成、白萩大橋渡橋式挙行

【町　章】

昭和４３年９月２４日、白老町町章条例により施行

白老の「白」と片仮名の「オイ」とを組み合わせて図案化したもので、円心は町民の「団結」を象徴したものであり、六角は農林業・水産業・工業・商業・観光その他の全産業が力強く伸び、豊かな町民生活が具現することを希求。二重の円形は町民の連帯による「平和」と「文化の発展」を表現したもの。

ＪＲ白老駅

チェプカの広場

満岡照子歌碑

満岡照子歌碑と「タモの大木」

屋根のない博物館通り

白老町役場庁舎

白老小学校旧校舎

風雪百年碑（白老小学校旧校舎敷地内）

二宮金次郎像（白老小学校旧校舎敷地内）

アイヌ記念公園

高橋房次像

旧北海道庁立白老病院跡

アイヌ碑

第二尋常小学校跡（白老生活館）

白老中学校跡（ふれあい広場）

ふれあい広場

旧白老町立高等学校（白老町高齢者学習センター）

編　集　民族共生象徴空間整備による白老町活性化推進会議

監　修　白老町教育委員会生涯学習課

問合先　仙台藩白老元陣屋資料館　TEL0144-85-2666